

1970年クリスマスの御講話

ゴアで帰依者の身代わりになったときの話③

私に痛みを持ってきなさい

人間としての生涯をまっとうするということは、何の見返りも考えずに無私の姿勢で奉仕をすることにあります。無私の姿勢で行った奉仕は、人の暗い内面に光を放ち、ハートを広げ、衝動を浄化し、永続する至福（アーナンダ）を授けます。人類は根本的に一つであることを、この国は強調してきました。この真理は献身的な奉仕という方法によって体験の中に据えられることができます。インドは芳しい色彩の庭であり、多様な教義と宗派を有していますが、そのすべてが、その単一性と、それに気づくための奉仕の道を強調しています。ここでは、あらゆる宗派が人は誰もが兄弟姉妹であると述べています。これこそは、この国のあらゆる聖者と聖賢のメッセージです。

時の経過と共に、そして、異国の文化の侵入と神をも畏れない態度によって、このメッセージが軽んじられるようになり、私たちは哀れを誘う内紛という窮状に陥り、かつては兄弟だった者たちが争っています！ 激情とめくらめっぽうな感情が、かつては勇敢に兄弟愛と奉仕の呼び声に答えていた国のハートを満たしています。激情と強い感情は地震のように災難をもたらすものであり、その影響は遠くまで広がりかねません。愛（プレーマ）を培うことによって、私たちは激情を静め、人の心（マインド）の情緒の安定と均衡を得るようにしなければなりません。

サットサングは人に潜在している愛を目覚めさせる

ここは、聖者トゥッカーラームが、聖なるガンジス河の水——聖地ラーメーシュワラムでリングの上に注ぐ儀式をすると誓った水——を入れた水筒を肩に下げてカーシーからラーメーシュワラムへと向かう途中、喉が渇いて死にそうになっていたロバを見た国です。トゥッカーラームは、すべての生き物は一つだという思いにほだされて、神聖な目的のためにはるばる運んできたガンジス河の聖水を一も二もなくその「兄弟」の渴き切った喉に注ぎ、自分が礼拝を切望していたリングをその「兄弟」の内に見て、幸せを感じました！ このように、人々の昔からの考え方の中には分け隔てのない愛が潜在しているのです。望まれることは、ただその愛を眠りから覚ますことです。サットサング（善良で神聖な仲間）は、その潜在している愛を眠りから起こすことができます。この仕事は、若者たちの間で、現時点で為されなければなりません。なぜなら、重荷は若者たちの肩にのしかかっているからです。

現時点での注意は〔神にではなく〕創造世界に集まっています。世界に対する反応は感情しだいであり、その感情が人を世界と関係しようという気にさせるのです。その感情は

これまでに得た体験しだいです。体験は欲望によって色が付けられるものであり、その欲望が接触を駆り立て、反応を引き寄せます。欲望は世界の本当の性質を知らないことに基づいています！ 世界はマヤー〔幻影〕であり、事実と虚構の混合物ですが、真実として重んじられているのです！ 世界は事実という土台の上に築かれた虚構です。事実は神性であり、虚構は多様性です。この惑いをもたらす主体は神です。というのも、事実は隠されており、虚構は神の戯れ（リーラー）によって課せられるからです。そして、神とは、形なきもの、触れることのできないもの、永遠なるもの、絶対者、無形なる至高の神我（ニラーカーラ パラマートマ）、人とすべての生き物および他のあらゆる原理（ブーター）のハート（フルダヤ）の中の空間（アーカーシャ）、解き放たれているもの、始まりも終わりもないものが、形をとって顕れた存在に他なりません。

空間（アーカーシャ）はある属性によって認識され得ますが、その属性とは、音（シャブダ）、すなわち言葉です！ 始まりは言葉でした！ その言葉が物体となり、形をまとい、具体化したのです。それゆえ、私たちは「物体」を「パダールタ」と呼ぶのです。「パダ」は“言葉”、「アルタ」は“意味”あるいは“目的”を意味します。「物体」は“言葉”が発せられる“目的”であり、“意味”は“言葉”に価値を持たせます！ 「木」という言葉がありますが、それが意味しているのは、向かいに立っているあのような木です！ 「人」という言葉がありますが、それが意味しているのは、あなた方です。言葉とその言葉の意味は、分かつことも区別することもできません。言葉は物体がなければ生じませんでした。また、物体も言葉がなければ生じませんでした。

神は一なるものであり、一なるものとなり得るが、一より多くはない

「神」という言葉も表示であり、それはパダールタ（物体）が存在すること、神が存在することを示しています。もし神が存在しなかったら、「神」という言葉も生じることはなく、流布することもなかったでしょう。あなたは神を見るかもしれませんが、見ないかもしれませんが、「神」という言葉は神が存在している証拠です。

神は遍在です。神は過去にも現在にも未来にも存在します。私の指に花輪を掛けてみましょう。指の左側に垂れている部分は未来、右側は過去、指に触れている部分は現在です。今、私は花輪を回転させて右のほうに引いてみます。未来は指の上に来て現在になり、それから下がって過去になりますが、現在は常に現在です。神は常に現在であり、未来が過去へと転がっていくのを見ています！

そして、神は一なるものであり、一なるものとなり得ますが、一より多くはありません！ 一なる神が存在するだけであり、神は遍在です！ 一つの宗教、愛の宗教があるだけです。一つの言語、ハートの言語があるだけです。神はこつこつと霊性修行を続けるという方法によって視覚化されなければなりません。疑いと躊躇に陥ってはなりません。修行を続け、意識を清めさえすれば、あなたのハート中に座っている神を見ることができます。砂糖が

入っているのにコップの水が甘くないのは、あなたが水をよくかき混ぜていないからです。神は世界に存在しており、一滴一滴を、すなわち原子の一つひとつの中の神性を、よくかき混ぜることによって、あなたは生きていく世界を甘いものにすることができます。知性はそのスプーンです。霊性修行（サーダナ）がそれをかき混ぜるプロセスです。生活のあらゆる瞬間を神で飽和させなさい。そうすることによって生活は甘くなります。

神はすべての存在の中の「私」

実際には、あなた方は今もすべてを神に捧げています。ただ、あなたはそれを、あなたが当然得るべきものである歓喜の中で意識的に行うことをしていないだけです！ あなた方は「私は自分の喜びのためにこれをする。私は幸せになるためにそこへ出かける。私は自分の満足のため、自分の向上のためにこれを読んでいる」などと言います。行い、出かけ、演じ、読み、楽しみ、喜ぶ、その「私」とは誰ですか？ それは、目、耳、脳等々を使って、見て、聞き、考える「私」です。それは、ラタン ラルの言う自分である「私」です！ ソーハン ラルもプラン ラルもインドゥ ラルも〔いずれも人名〕、皆、「私」、「私」、「私」と言います。その「私」は、すべての人の中にいます。それは各人の中の個人化したアートマであり、特定のもののの中に映る普遍なるものです。ですから、あなたが「私は自分の喜びのためにこれをする」と言うとき、本当は、あなたはそれをあなたの中の「私」、つまり神のためにするのはです。それゆえ、ギターは、「マーム アヌスマラン」〔私を心に留めよ〕、「マーム エーカム シャラナム ヴラジャ」〔私のみを庇護を求めよ〕、つまり、「あなたを私に託しなさい！」と述べているのです。その「私」とは誰ですか？ 神です。なぜ神は「私」と呼ばれるのですか？ なぜなら、神はすべての存在の中の「私」だからです。

人は、食物でできた鞘（アンナマヤ コーシャ）の中、言い換えるなら肉体の中に落ち着いている時、また、生気でできた鞘（プラナーマヤ コーシャ）の中、すなわち神経と生気の活動の領域にいる時、生活は食べ物と遊びと満足のいく快適な生活によって満たされると感じます。心でできた鞘（マノーマヤ コーシャ）へと上がると、想像力の視界が開け、神の栄光と威厳を垣間見て、それが人に神を崇拜させ敬意を抱かせます。次の鞘、理智でできた鞘（ヴィグニャーナマヤ コーシャ）に足を踏み入れると、人は経験の多様性の探求へと向けられ、五番目の鞘である至福の段階（アーナンダマヤ）へと導かれ、理智が組み立てた神に関する仮説は確信となります。それは人を恐れと疑いから解放します。英知のみが完全な自由を授けることができます。文化の最終目的は進歩であるのと同じく、知識の最終目的は愛であり、また、英知の最終目的は自由です。

救済と維持ができるのはバクティ ヨーガのみ

物質の所有という豊かさを手に入れることで日々を浪費してはなりません。それはしばしば人生という旅の妨げになります。お金は入ってきても出ていきますが、道徳は入って

くると成長します！ お金は本当の富ではありません。お金は価値を失います。お金はエゴを膨らませます。血液が循環しなくなると健康に害を及ぼすように、お金が循環しなくなると健康に害を及ぼしします。

神の化身たちよ！ これから私が言うことを聞いて気を悪くしないように。私は完全な愛からそのことを話すのですから。昨今では、解脱へのさまざまな近道を行こうとする人が大勢います。彼らが目星をつけて説こうと決めた道は、弟子たちを魅了し、いくつものグループが作られています。彼らは、ハタ ヨーガ、クリヤ ヨーガ、ラージャ ヨーガ、そして、ほんのわずかのヴェーダーンタを組み合わせでそれらをでっち上げ、指導者やリーダーとしてそれらを始めます。しかし、彼らもたらす結果は薄っぺらで壊れやすいものです。それらは長続きしないもの、本当には解脱に到らないものです。救済と維持ができるのはバクティ ヨーガ〔神への愛のヨーガ〕のみです。それは何世紀にもわたって定められ、実践されてきたことからわかります。神は愛を通してのみ顕現させることができます。ハートに愛がないなら、神がそのような砂漠に住むことはないでしょう。他の道は慢心を募らせ、人と人、人と動物を引き離します。他の道は縮小します。他の道は手を差し伸べません。他の道はあなたの神の覚りの領域を縮めます！ 愛は拡大であり、拡大は神の愛です。愛を蒔きなさい。それは思いやりと寛容となって花開き、平安（シャーンティ）という果実を実らせませす。

同一のアートマが万人に内在しているのだから、すべての人を敬いなさい

神は自然という媒体に映し出されており、あらゆる物の中に神の御姿を認識することができます。もしその媒体が浄性（サットウィック）であれば、神はその姿においても、そのままの神の状態の神として存在します。もし激性（ラジャスウィック）の媒体に映し出されれば、神の姿はジーヴィ〔肉体をもった個別の魂〕となります。鈍性（タマスウィック）の媒体が神を映せば、その姿は物質です。月は一つであり、とても遠くにあっても影響をこうむりませんが、さまざまな壺の水面に映った月は、それぞれの水の澄み具合と穏やかさの具合によって明るさや安定性が違ってきます。

浄性（サットウィック）は金の壺、激性（ラジャスウィック）は銅の壺、鈍性（タマスウィック）は鉄の壺です！ 壺の価値は違っても、月の姿はそれぞれの壺が湛えることのできる水に、等しく、よく映ります。また、金の壺はマハートマ（偉大な魂）、銅の壺は信者、鉄の壺は無神論者ですが、三つのどれにおいても、内にある動機を与えている者、内に住まう者はアートマです。ですから、すべての人を敬いなさい。同一のアートマが万人に内在しているのですから。

教師は自分が教えることを実践し、自分の教え子に避けて欲しいと思っていることを自ら避けなければいけません。そうして初めて、教師の教えは担任となった者の生活に影響を及ぼすことができます。今のグル（導師）は、自分は欲でいっぱいでありながら、ずう

ずうしくも教え子に欲を捨てよと忠告します！ 自分は煙草を吸っていながら、教え子に喫煙の習慣を戒めます！ そのようなグルは、誠実に実践することよりも、世間の注目を得ることを気かけます。サティヤ サイ オーガニゼーションには、どのような優越も誇示しようという気はありません。サティヤ サイ オーガニゼーションは、理想を示すこと、確かな根本の靈的眞実と確かな靈的修養の有効性の眞実の証人となることに、努めています。

サイ アヴァターの眞正

神の化身たちよ！ 今日、この降臨が眞正であることについて、いくらか話をする最善の時です。私がこのことを話すのは、この体の優越や重要性を主張するためではありません。私はひとえに眞実を伝えたいだけです。私が顕している光輝、行いの一つひとつに示される神性、恩寵の結果である不思議な事や驚くべき出来事に、耐えられない人や許容できない人が大勢います。そういった人たちは、それらに催眠術や奇跡や魔術の妙というレッテルを貼ります！ 彼らはそれらに対する人々の評価を下げることを望んでいるのです。言っておきますが、私のものは催眠術でも奇跡でも魔術でもありません。私のものは正眞銘の神の力です。

このことに難癖をつける人たちもいて、「奇跡は靈性の発達への助けにはならない、あの人たちは神を顕現させる過程で片端になる」と耳打ちし、眞理の道から離れるようあなた方を説得します。こうした人々は神を想像するには弱すぎるのです。彼らには神の莊嚴さと威嚴を理解するだけの強さや持久力がありません。彼らは心が狭く、知性に欠けています。

クリシュナの邪悪な伯父、カムサは、自分はクリシュナの手で死を迎えることになるということを知っていました。そのため、カムサは非常な恐怖に脅えていました。そのせいで、どこにも目を向けてもクリシュナが見えました！ 自分の隣にも、前にも、後ろにも、上にも、自分の周囲すべてにクリシュナが見えました！ そのため、カムサはこぶしを震わせてその姿に向かって言いました。「クリシュナよ、魔術を使うとは恥を知れ！ 私を脅えさせようというおまえの戦略など跳ね飛ばしてやる！」 自分の肉体の強さは直接かけられた魔術でも跳ね除けることができると、カムサは自慢しました。しかし、幼い七歳の少年クリシュナが円形場で跳び上がってカムサの首根っこをつかむと、カムサは倒れてしまいました。クリシュナはカムサの胸の上に座って死ぬほど強く何度もカムサを殴り、カムサの耳元で叫びました。「伯父上！ これは魔術！ 魔術！ 魔術！」 あなたのすることが、ただ特定の言葉を使ってその現象を馬鹿にすることであるならば、あなたはその現象を理解したとは言えません！

愛の戯れの中であなたが苦しむ理由はない

神は何でもできます。神は自分の手のひらの中にすべての力を持っています！ 私の力は、しばらく私の中に留まってから徐々に消えていくようなものではありません！

インドラ ジャーラム イダム

——このすべては神の意志によって明らかに巧みに操作されているものである

私の体は、他のすべての体と同じく、一時的な住居です。しかし、私の力は不滅であり、すべてに遍満し、永久に続きます！ この体を身にまとったのは、「ダルマを確立し、ダルマを教える」という目的のために仕えるためです。その目的を終えた時、この体は消えるでしょう。水のあぶくのように。

先日、ゴアで非常に深刻な病気がこの体を襲いました。私に帰依する多くの者たちは、それを知ると不安と絶望に陥りました！ 病気がこの体に影響を及ぼすことは決してできません。病気はこの体に近づくことさえできません。もし時たま病気がやって来ることがあったとしても、それは一時的なものにすぎません。それは誰か他の人の病気であり、それが私のところに来て、来たかと思えば去っていきます！ 病気がやって来ると、この体は病気になったように見えます！ しかし、私は病気とは無縁であり、苦痛はありません！ そうしたことが起こると、多くの人々が勇敢になり、その状況に対処する方法を私に助言させます！ 彼らは私に言います。

「どうしてですか、スワミ！ どうしてスワミは他の人の病気が自分のところに来るのをお許しになったのですか？ もしその人がその病気で苦しんでも、その人一人が苦しむだけです！ でも、スワミが御自分にその病気が来ることをお許しになれば、何十万人もの人々が苦しみます！ 病気はその人のところに留めておいてください、スワミ！」

この体が苦しんでいる時、帰依者たちがいっしょに苦しむのは、帰依者の性分であり、義務ですが、私も私の義務に従わなければなりません！ 私に全託している人の苦しみを肩代わりすることは、私の義務です！ 私は私の義務を果たし、あなた方はあなた方の義務を果たせばいいのです。しかし、この真実を正面から公正に見るとき、あなた方は、私に苦しみはなく、あなた方にも苦しむ理由はないということがわかるでしょう！ 事的一切は愛の戯れです！ 病気は愛ゆえに私に請け負われました。ですから、私には痛みや苦しみはありません！ あなた方は愛ゆえに苦しみます。それは愛、始めから終わりまで愛です。悲しんだり痛みを感じたり、苦しむ理由はありません！

決して神への信仰から外れてはならない

愛を培いなさい。愛に酔いしれるようになりなさい。ここには何万人もの人々が集まっていて、皆自分のことを帰依者と呼んでいます、その人たちがどれだけ本気かを調べてみれば、99%はパートタイムの帰依者であり、フルタイムの帰依者ではないということを、あなた方は認めざるを得ません！ 私の真実を知っていたら、あなた方はゴアのラージ バヴァンのニュースを聞いて苦しむ必要などまったくありませんでした！ そのニュースが

入ってきたとき、信仰心が激しく揺れ動いた人々もいました！ 帰依者はつねに信仰の喜びの中で揺らぐことなく輝いていなければいけません。

母と息子が、お互いの財産の権利のことで、あっという間に深刻な争いとなり、すっかり仲たがいで法廷に立ち、裁判官を前に反対側の席から互いに睨み合いました。裁判官は母親に、「あなたはそこに立っている若い男性を知っていますか？」と尋問しました。すると母親は、「はい、彼は私の息子です！」と答えました。どれほど激しく憎んでいたとしても、彼女は彼を自分の息子だと認めなければなりませんでした！ 息子も同じように、「あなたはこの女性を知っていますか？」と尋問されました。息子は、「はい、彼女は私の母親です！」と答えました。あなた方も、あなたと神を引き離すような何が起ころうとも、決して信仰から外れてはなりません。

全人類の幸福を祈りなさい

それほど断固とした信仰は、急速に滅多にないような珍しいものになりつつあります。あなた方は、自分の望みが叶わないと神を否定します。望みが叶うと大いに誇示して神を崇め、自分の祭壇に祀る神の絵を増やし、花や線香代を奮発します！ 神には好みも偏見もありません。神は、反動、反映、反響にすぎません！ 神は、至福（アーナンダ）を授けるため、至福を育むため、至福を得て活性化させるための方法を教えに来ます。神は、人間たちのハートに愛する準備をさせるために、世界の痛みと悲しみを肩代わりします！

今日は、キリスト紀元、キリストの年の始まりの日です。キリストは自分に信仰を置いた人々のために命を犠牲にしました。キリストは、奉仕は神なり、犠牲は神なり、という真理を伝えました。あなた方は、たとえ神を崇めることをためらったとしても、人間の姿をまとしてこれほどの多数となってあなたの周囲のあらゆる所で行動し、さまざまな衣装を着て話す、生きとし生ける神への奉仕をためらってはなりません！

人類同胞に慈悲を注ぐことのできる者だけが、神の恩寵の中に自分の場所を要求することができます。これは最高の霊性修行でもあります。それは人類社会が一つであること、そして、神の内在の栄光を、あなたに刻印します。セヴァ ダルたちが本当に喜んで励んでいるこの修養が国中に広まり、この国が幸福になり、繁栄することができますように。世界が、平和と幸福、そして、愛に満ちた信頼を持つことができますように。これが私の祝福です。私はあなた方に全人類の幸福と繁栄を祈ってほしいと思っています。

1970年12月25日の御講話
ムンバイのダルマクシェートラにて
Sathya Sai Speaks Vol.10 C39